大分医療センター
広報誌

vol.32
2026年

あいしん大分

新年のご挨拶
院長…… 2
副院長…… 3
統括診療部長…… 4
事務部長…… 4
看護部長…… 5
薬剤部長…… 5
診療科紹介　病理診断科…… 6
第79回 国立病院総合医学会 in 金沢
参加報告 …… 7
キャンドルサービス…… 8
人事異動…… 9
外来診察医担当表…… 10

雪とアオキの赤い実と冬の青い鳥ルリビタキ（撮影：伊藤恭子）

大分医療センター

2026年　新年のご挨拶

院長
奈 須 伸 吉

2026年午年　みな様明けましておめでとうございます。

昨年末から暖かい日もあれば寒波が来たりで、みな様体調は大丈夫だったでしょうか。当家の庭の侘助や山茶花の花は満開ですが、毎年訪れるつがいのメジロはまだ姿が見えません。この冬には佐賀関の大火災がありましたが、二次避難所には被災された住民の方々がまだ沢山残っていらっしゃいます。一日も早い復旧を心より願うとともに、こうして暖かい家の中で無事に年を越せたことに改めて感謝の気持ちを覚えています。

2020年からの6年間を振り返りますと、大分医療センターはウイルスパンデミックの洗礼を真っ先に受けて院内に暗雲が立ち込めましたが、高浜虚子の俳句「時ものを解決するや春を待つ」、 正岡子規の短歌「真砂なす数なき星の其の中に吾に向かひて光る星有り」を紹介したり等々職員を励ました頃がずいぶん昔の事のように思われます。今では、職員のみなさんの頑張りと大分医療センターを応援してくださった方々のお陰で、職員みなに明るさと活気、落ち着きが戻り、地域住民や医療機関からの信頼はかなり回復しており、むしろパンデミック前よりも謙虚になり地に足がついているようにも見えます。患者さんからの意見も年々良くなっており、多くの職員が病める人の身になって優しく丁寧に接することが出来ているからだと思います。やはり時には苦労することも必要ですし、苦労すれば本当に一回り成長できるようです。また、医師会の先生方との合同研究会、健康フェアや歓送迎会、忘年会などの病院行事に参加した時には病院が復活したことを実感できています。この6年間私たち病院幹部は、すぐに答えが出なくても急がず焦らずに我慢しながら病院運営を行ってきましたが、ご協力いただいた職員のみなさんには心から感謝しています。

そして、2026年は丙午で物事が力強く前進する年とのことですが、そういう干支だからこそ浮つかずに足元を固めて着実に進んでゆくべきだと思います。私の院長任期も残り3か月になりましたが、最後まで落ち着いて役割を全うしたいと思っております。

本年度の経営面は、紹介患者数はパンデミック前にほぼ戻り、救急車受け入れ件数は過去最高のペースで、入院患者数も徐々に増えてきました。そして届け出病床数を現在の273床に変更し、しばらくの間縮小していた包括ケア病棟の運用病床数も増やしました。外来は逆紹介の推進などによりスリム化できたため、救急医療や入院診療に重点を置けるようになり、働き方改革にも割とスムーズに対応できています。病診連携も毎年着実に良くなっていると思います。今年度初めに、2025年度は大分医療センターにとって重要な分岐点になると考えましたが、お陰様で、医業収支は月々の収支率の振幅が徐々に縮小して少しずつ右肩上がりに改善していますし、病床適正化事業に対する補助金収入や電子カルテの減価償却費の終了があり、医療用消耗品、大型医療機器の共同購入とメンテナンス費用等の支出削減も行っていますので、今年度の経常収支黒字化の可能性はまだ残っています。少なくとも減価償却前収支を黒字化し、でき得ることなら経常収支を黒字化し、次年度以降には医業収支黒字化を目標にするのが良いと思います。現時点でも大分医療センターはかなり健闘している方だと思いますが、黒字化できれば病院の評価が上がりきっと好循環になります。

当院には地域医療を支えるために必要な医療機器は揃っていますし、丁度良い規模で職員の顔も見えやすく働きやすい病院だと思います。昨今では、最先端の高額医療機器を強みにするいわば機械頼みの医療を売りにする風潮がありますが、真っ当な医療を行うためには職員の真っ当な姿勢が一番大切だと思います。職員はみな共同体の一員、お互いを尊重して思いやる。そして、愛の心・手で病める人々に寄り添う医療を実践することが当院の一番の強みだと思いますので、職員は自信を持ってこの姿勢を続けてください。もちろん医療は一生懸命やってもうまく行くこともあればうまく行かないこともありますが、謙虚さを忘れなければ今後も大分県東部地域を支える病院として立派に残ってゆけると思います。職員一同、大分医療センターで働き、地域医療を支えていることに喜びと誇りを持ち、日々感謝の気持ちを忘れず先行きに対しては悲観的にならずに、「患者・家族のために、自分のために、大分医療センターのために」より良い病院にしてゆきたいと思います。

みな様本年も大分医療センターをどうぞよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

副院長
椛　島　　章

明けましておめでとうございます。皆様の年明けが穏やかであることを切に願います。

京都清水寺の森精範貫主にて発表されるその年を象徴する漢字において、令和７年は「熊」が選ばれました。昨年は熊による人身被害者数・死亡者数がともに過去最多となりました。市街地など人の生活圏でも熊が多数目撃され、全国各地でイベントの中止や学校の休校が相次ぎ、農作物の被害が深刻化し、社会問題になりました。被害拡大を受けて、政府が「クマ被害対策パッケージ」の緊急対策を講じたり、自衛隊が出動したりと、熊の駆除が国を挙げての課題となりました。ただ、熊も山に餌が少なくなったため人の生活圏に出現してきたわけで、熊は熊なりの事情があることは推測できます。人の営みによる自然環境の変化（破壊）がその要因の一つと考えなければいけません。自然との共生をしっかり考える必要があります。また、パンダは漢字で書くと、「熊猫」だそうです。昨年は、和歌山県・白浜町にあるテーマパークから４頭のジャイアントパンダが中国へ返還されました。今年は、上野動物園の２頭が返還予定です。50年ぶりに国内にパンダがいなくなります。日本政府は、中国に新たなパンダの貸与を依頼しているようですが、昨今の日中関係の影響か、色よい返事を貰えていません。一方、フランスへは貸与の話が進んでいるようで、パンダを通して、中国の国際戦略が垣間見られる感があります。

さて、令和８年の干支は「丙午（ひのえ・うま）」です。これは十干（じっかん）の「丙（ひのえ）」と十二支の「午（うま）」が組み合わさったもので、60年に一度巡ってくる特別な年とされています。午（うま）の象徴は、躍動感・行動力・成功で、幸福を運び、物事が順調に進むことを表します。丙（ひのえ）の象徴は、火の要素を持ち、生命のエネルギーや明るさ、道を切り開く力強さを意味します。全体的な意味として、強いエネルギーで道を切り開き、新しいことを始めるのに最適な活気あふれる年とされます。 ただ、「丙午（ひのえうま）年の生まれの女性は気性が激しく、夫の命を縮める」という迷信があります。 これは、江戸時代の初期の「丙午の年には火災が多い」という迷信や八百屋お七が丙午の生まれだとされたことから、女性の結婚に関する迷信に変化して広まっていったとされます。そのためか、前回（1966年）の丙午は急激に出生数･率とも前（65年）後（67年）を下回りました。この干支生まれの女性は男性を「食う」といった迷信が意図的な出産回避を生んだというのが定説です。いつの世も、迷信やうわさに人々は翻弄されやすいものだと感じさせられます。少子化が社会的課題となって久しいなか、今年の出生率はどうなるでしょうか。

以上、年頭にあたりまして、少々雑学を述べさせていただきました。今年も、「熊」のごとき厳しい医療情勢と共生し、「丙午」のごとく強いエネルギーで地域医療の明日を切り開いていければと存じます。

今年も大分医療センターをよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

統括診療部長
有 川 雅 也

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、清祥のうちに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

まずは、昨年年末に発生いたしました佐賀関における火災により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災地域の一日も早い復旧を祈念するとともに、当院といたしましても、地域医療を担う医療機関として、災害時を含めた医療提供体制の確保に引き続き努めてまいります。

昨年のご挨拶では、当院の課題として、①働き方改革およびタスクシェアの推進、② Rapid Response System（RRS）の構築、の二点を挙げさせていただきました。①につきましては、２名の診療看護師（JNP）、３名の認定看護師を中心に職種間連携が進み、院内の協力体制が着実に強化されております。②につきましては、なお課題は残るものの、昨年 12 月に Rapid Response Team（RRT）を結成し、運用を開始することができました。今後も継続的な改善を重ね、安全で質の高い医療の提供に努めてまいります。

さて、本年は青山学院大学の箱根駅伝三連覇という明るい話題で幕を開けました。なかでも、黒田朝日選手の「シン・山の神」としての圧倒的な走りは、個の力が組織全体の成果につながることを強く印象づけるものでした。ただ、その背景には、選手一人ひとりの特性を的確に把握し、最大限の力を引き出す原晋監督の卓越したマネジメント力があると感じております。当院においても、優秀なスタッフそれぞれの力を生かし、チームとして最良の医療を提供できる組織を目指してまいります。

本年が皆さまにとって実り多き一年となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

事務部長
今 村 宏 次

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、職員の皆様には当院の医療および病院運営を支えていただき、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、物価高騰や人材確保の困難さなど、医療機関を取り巻く環境は依然として厳しい一年でありました。ある医療系情報サイトにおいても、昨年の医療界を象徴する漢字として「忍」が５年連続で選ばれ、また一昨年 25 位であった「赤」が２位に急上昇するなど、医療機関の経営環境の厳しさが改めて浮き彫りとなる結果であったと報じられております。

そのような中にあって、当院におきましては、ベースアップや物価高の影響により人件費や材料費等が増加する一方、入院患者数の増加による入院診療収益の伸長や、経営改善の取り組みによる収益増が見られ、医業収支は年々改善傾向にあります。これもひとえに、医師・看護師をはじめとする全職員の皆様の日々のご努力とご協力の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。

さて、本年は診療報酬改定の年でもあります。診療報酬本体は 3.09％の引き上げとなり、物価および人件費の高騰への対応が主な柱とされています。当院といたしましても、今回の改定の趣旨を的確に捉え、安定した医療を提供するため、健全経営を目指してまいります。そのためには、職種や部署の垣根を越えた連携、そして現場からの声が何より重要であると考えております。事務部といたしましても、診療部門、看護部門、コメディカルの皆様が安心して力を発揮できる環境づくりに、引き続き全力で取り組んでまいります。

本年が、職員一人ひとりにとって実り多き一年となり、また当院が地域の皆様からより一層信頼される病院となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

看護部長
黒　木　智　鶴

新年あけましておめでとうございます。日頃より当院の運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、昨年発生した佐賀関大規模火災により被災された皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。皆さまが安心して暮らせる日常が戻りますことを心より願っております。

さて、昨年は地域の皆さまとのつながりを一層深める一年となりました。今年度も健康フェアを開催し、令和６年度よりも多くの方々にご参加いただき、健康への関心の高まりとともに、当院のことをより一層知っていただく貴重な機会となりました。

また、当院の認定看護師や診療看護師が地域の医療関係者の皆さまを対象とした研修会や講習会等の講師を務めさせていただく機会をいただきました。微力ながら、専門知識や技術を地域に還元し、共に学びを深められたことは、私たちスタッフにとっても大きな糧となりました。

看護部では、「地域を支える看護部となる」をスローガンに「患者・家族のために、自分のために」一人ひとりを大切にできる組織作りを目指してきました。今年はさらに一歩前進していきたいと思っております。

当院は、特定行為研修指定研修機関として指定を受けるために現在申請を行っています。指定を受けた際には、特定行為研修修了看護師の育成、看護部としてさらなる看護の質向上を目指していきます。

丙午の年は、力強いエネルギーに満ちた年と言われております。私共もその勢いに負けぬよう精一杯邁進してまいる所存です。本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

薬剤部長
中　村　敦　士

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。 旧年中は多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

着任後初めて迎える新年となりました。この数ヶ月間、職員の皆様の患者さんに対する温かい姿勢と献身的な働きぶりに触れ、深く感銘を受けております。

当院の目標である「経営改善と経常収支率 100％達成」に向け、薬剤部では収益向上に直結する活動を強化してまいりました。特に薬剤管理指導業務に注力した結果、部員一人ひとりの尽力により、指導件数は対前年で飛躍的に増加いたしました。薬剤師の専門性発揮が患者さんの回復を助け、病院経営にも大きく貢献できたことは大きな成果です。

また、短期間で薬剤部の雰囲気も好転し、明るく活気に満ちた職場へと変化しました。この良好な風通しが、他部署との円滑な連携の原動力となっています。

さて、今年は「午（うま）」年です。馬は古来より「物事がうまくいく」象徴とされる縁起の良い干支です。この職場の勢いを大切に、他部署の皆様と歩調を合わせ、山積する課題が「うまく（午く）いく」よう、薬剤部一同、力強く邁進してまいる所存です。

さらに、医療の質と効率を高めるため、医療 DX への対応を重要課題と位置づけています。医療安全面では、薬剤関連インシデントの半減を目指し、全職員と連携した取り組みを継続します。特に電子カルテの更新準備を確実に進め、デジタル技術を駆使した安全管理と効率化をさらに推進いたします。

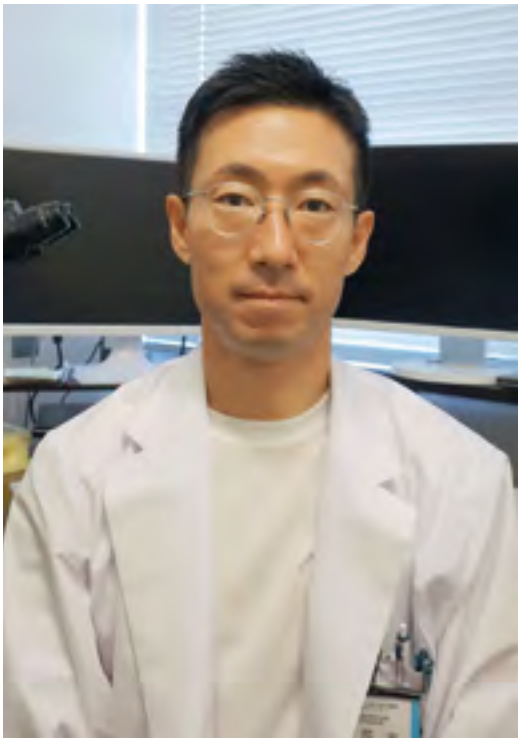
最後に、医療従事者への評価が高まり、賃金上昇の動きなど明るいニュースも聞こえてまいりました。この追い風を受け、本年も皆様と心を一つにし、質の高い医療の提供と「経常収支率 100％達成」への貢献を目指します。本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

大分医療センター
診療科紹介

病理診断科

Department of Pathology

病理診断科部長
荒金　茂樹



病理診断科部長・研究検査部長
荒金　茂樹

病理診断科医師
森内　昭

大分医療センター　病理診断科を紹介いたします。

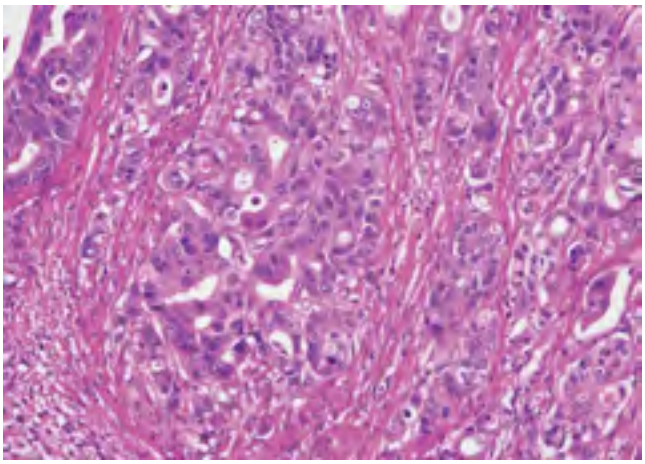
当科は、常勤病理専門医１名、非常勤病理専門医１名、細胞検査士２名の４名で業務にあたっています。長らく病理診断科部長を務められていた森内先生にかわり、私、荒金茂樹が2023年３月より部長を任されておりますが、森内先生には引き続き病理診断に携わっていただいております。

病理診断科では、院内で年間3,500件ほど採取される生検検体、細胞診検体、手術検体にもとづき、病理診断を行っています。

診断内容は腫瘍性疾患、炎症性疾患、感染性疾患、循環障害に伴う疾患、代謝異常に伴う疾患、免疫異常に伴う疾患など多岐に渡りますが、腫瘍性疾患、特に悪性腫瘍に関する診断が多くを占めています。悪性腫瘍の診断では、主に本邦の癌取扱い規約とWHO腫瘍分類に基づいて診断を行い、最新の診断名、用語を用い誤解を生まない内容を心がけています。

癌の診断では、まず良性か悪性かの判断から始まり、悪性であればその詳細を判断していきます。癌診断の詳細には、組織型（腺癌、扁平上皮癌、神経内分泌癌など）、異形度（正常の細胞から変化しかけ離れた度合い）、大きさ、深達度（臓器にどれくらい深く浸潤しているか）、血管やリンパ管への浸潤の度合い、転移の有無などが含まれ、10～30項目程度を判断し、診断しています。

どのような検体も患者さんの体の一部であり、患者さんと主治医の先生とでストレス、時間、労力をかけ、痛みやリスクを負って採取された大切な検体であることを忘れず、１例１例丁寧に診断させていただいております。



大腸の腺癌

第79回 国立病院総合医学会 in 金沢 参加報告

輪・環、そして和 ― 未来への「わ」の創成　2025年11月7日(金)－8日(土)／石川

ポスター発表

電子カルテテンプレートを用いた薬剤師業務記録の一元化による業務効率化と実績評価

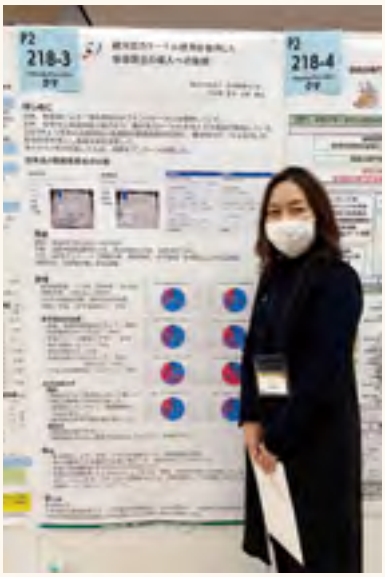
薬剤師　中嶋　浩太郎

11月7日～8日に金沢で開催された第79回国立病院総合医学会に参加させていただきました。人生初の金沢上陸。金沢駅では巨大な鼓門がお出迎え。早々に芸術の街たるを感じました。金沢城・兼六園では茶室で和菓子と抹茶をいただきました。個人的な話ですが、茶道の経験があり、藩主である前田家が大切にした茶道の歴史を感じることができました。学会では「電子カルテテンプレートを用いた薬剤師業務記録の一元化による業務効率化と実績評価」について発表させていただきました。ニッチなテーマではありますが、南は鹿児島、北は北海道まで普段接することのない地区の先生方から質問やご意見をいただき素晴らしい経験をすることができました。今回の取り組みを早速取り入れてくださる病院もあるとのことで嬉しく思うと共に自分も学会で学んだことを業務に生かしていきたいと思います。発表するにあたりご指導をいただいた皆様、感謝申し上げます。

ポスター発表

親水性カテーテルを使用した新導尿法の導入への取組

看護師　中鶴　直子



11月7日、8日に石川県で開催された第79回国立病院総合医学会において、当院で導入した「親水性カテーテルを使用した新導尿法の導入への取組」についてポスター発表を行いました。

従来、看護師が病棟で行う一時的導尿はネラトンカテーテルを使用していましたが、患者の苦痛軽減と安全性の向上、看護師の業務効率改善を目的として看護手順を見直し、親水性カテーテルを使用した新導尿法を導入しました。今回の発表では、主に病棟での運用を中心に、準備や後片付けの簡便化、処置時間の短縮など、看護師の業務改善につながった点に加え、患者の安全性向上について報告しました。

学会では他施設の様々な取り組みを学ぶことができ、今後の看護実践に活かしていきたいと思っております。今回の発表に際し、ご協力頂きました皆様に感謝いたします。

キャンドルサービス

12月18日17時頃より、職員によるキャンドルサービスを行いました。キャンドルのやさしい灯りと音楽とともに各病棟を巡り、入院中の患者さんに、少しでも安らぐ時間を過ごしていただけるよう取り組みました。患者さんからは、「きれいだった」「気持ちが落ち着いた」といった声も聞かれ、職員にとっても心温まるひとときとなりました。
忙しい日常の中でも、こうした時間を大切にしながら、これからも患者さんに寄り添ったケアを続けていきたいと思います。

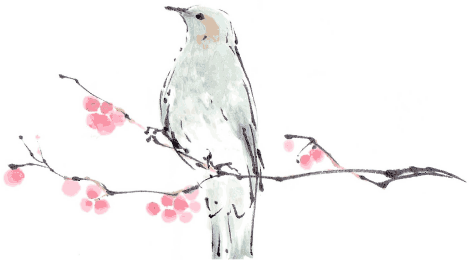
人事異動

退職・転出等

発令事項	発令日	職　　名	氏　名	備　　考
退　　職	R8. 1. 26	看護師	工藤真紀子	
退　　職	R8. 1. 31	看護師	保明　美貴	

採用・転入等

発令事項	発令日	職　　名	氏　名	備　　考
採　　用	R8. 1. 5	事務助手	木下理恵	



基本理念

「愛の心・手」で
病める人々に寄りそう医療

基本方針

- 職員はみな共同体の一員。お互いを尊重して思いやる。
- プロ意識を高めて、チーム医療を充実させる。
- 地域医療支援病院および紹介受診重点医療機関として365日断らない医療を目指す。
- 大分県東部地域の救急・入院診療の中核を担う。
- 大分県がん診療連携協力病院としてがん診療を充実させる。
- 地域に根差した積極的な広報活動と情報発信を行う。
- 安定した医療を提供するため、健全経営を目指す。

大分医療センターのロゴマークについて

全体のコンセプト

Oita National Hospital（旧国立大分病院）の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。

これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

「緑と赤」… 昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
「青」…… 大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
「黒」…… 地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。

募集

表紙の写真や大分医療センターのなつかしい写真を募集します。
ぜひ編集委員へご提供ください！

編集委員

委員長　有川　雅也
委　員　今村　宏次　　坂本　昌則　　今井　友紀子　　梅木　祐　　大野　詩織　　村上　英恵

外来診察医担当表

【令和８年１月１日現在】

患者のご紹介はこちら ／ 8:30〜17:15

① ☎ **097-593-1112** ／ 総合支援センター
FAX 097-528-9651

①が繋がらない時・時間外は②へ

② ☎ **097-593-1111** ／ 病院代表

独立行政法人 国立病院機構 大分医療センター

■ **受 付 時 間　8:30〜11:00**

■ **診察開始時間　8:30〜**

※救急患者についてはこの限りではありません

診療科　曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
糖尿病・代謝・内分泌内科	森田真智子(新患・再来)	嶋﨑　貴信(新患・再来) 仲間　寛	嶋﨑　貴信 仲間　寛(新患・再来)	嶋﨑　貴信(新患・再来) 仲間　寛	嶋﨑　貴信 仲間　寛(新患・再来)
腎臓内科			竹野　貴志(予約制)		
膠原病内科			安倍いとみ(予約制)	梅木　達仁 (予約制 第1・第3・第5週)	
消化器内科 (肝センター)	木下　竜一 山下　勉 岡本　和久	勝田泰志郎 室　豊吉 山下　勉 水内　梨絵	山田　訓也 山下　勉 相馬　颯介	相馬　颯介 山下　勉 勝田泰志郎	岡本　和久 山田　訓也 木下　竜一
循環器内科	有川　雅也 丸尾啓一郎 原田　泰輔（新患）	有川　雅也 原田　泰輔 田原　功道(新患)	田原　功道 原田　泰輔 丸尾啓一郎(新患)	田原　功道 丸尾啓一郎 有川　雅也(新患)	有川　雅也 丸尾啓一郎 田原　功道(新患)
心臓血管外科				河島　毅之 (第２・第４週 10:00〜)	
呼吸器内科 (呼吸器センター)	横山　敦(新患) 後藤　昭彦	横山　敦 平川　太星（新患）	後藤　昭彦(新患) 石川健太郎	横山　敦 石川健太郎(新患)	横山　敦（新患） 後藤　昭彦
血液内科	諸鹿　柚衣 (月曜日受付 新患10:30〜11:30(予約制)／再来9:00〜15:30)			樋園　和仁 ※ (木曜日受付 新患8:30〜10:00／再来8:30〜11:00　診療8:30〜)	
脳神経内科				日野　天佑 (新患受付 〜14:00 診療時間 14:00〜)	
外科	渡邉　公紀 高橋　純一	椛島　章 永島翔一朗	渡邉　公紀 渡邉　淳平	高橋　純一 小林　照之	小林　照之 渡邉　淳平
呼吸器外科				高祖　英典(再診予約) (10:00〜)	
整形外科	田畑　知法 福井　淳	田畑　知法 福井　淳	(手術日)	田畑　知法 福井　淳	金曜新患受付10時まで 田畑　知法 福井　淳
泌尿器科　新患	紹介は「外来担当医」宛てでお願いします。 (新患受付) 10:00まで				
泌尿器科　再来	奈須　伸吉 住野　泰弘 村上　幹	住野　泰弘 村上　幹 山中　直行	奈須　伸吉 住野　泰弘 村上　幹	住野　泰弘 村上　幹 大野　哲	奈須　伸吉 住野　泰弘 村上　幹
婦人科	佐藤　初美	佐藤　初美	梶原　由衣	佐藤　初美 岡本真実子（午後） (受付 13:00〜16:00 診療 13:00〜17:00)	梶原　由衣
放射線科	牧角　健司	牧角　健司(午前) 本村　有史(放射線治療 新患午後)	牧角　健司	牧角　健司(午前) 本村　有史(午後)	牧角　健司 (第４週のみあり)
内視鏡 (胃腸センター)	勝田泰志郎 相馬　颯介 水内　梨絵	岡本　和久 木下　竜一 山田　訓也	勝田泰志郎 木下　竜一	岡本　和久 山田　訓也 水内　梨絵	山下　勉 相馬　颯介 水内　梨絵
専門診療科の判断が困難な内科系疾患(午前)	総合診療内科 血液内科	呼吸器内科	循環器内科	血液内科	消化器内科

地域医療支援病院　日本医療機能評価機構 認定病院
独立行政法人 国立病院機構 **大分医療センター**
https://oita.hosp.go.jp
〒870-0263 大分市横田２丁目11番45号　TEL097-593-1111　FAX097-593-3106 ／ 総合支援センター直通 TEL097-593-1112　FAX097-528-9651